

正誤表

本書中に訂正箇所等がありました。申し訳ございませんでした。お手数をおかけしますが、下記ご参照いただけますようお願い申し上げます。(2020年5月14日)

■第1版第1刷(2014年4月10日発行)の修正箇所

ページ	場所	修正前	修正後	補足
30	下から4行目式(1-2-1)	$r = \frac{\ln(w_0/w)}{\ln(t_0/t)}$	$r = \frac{\ln(w/w_0)}{\ln(t/t_0)}$	
48	下から4行目	…構造になる。線膨張係数は鉄の約71%の $8.6 \times 10^{-6}/K$ 、	…構造になる。線膨張係数は鉄の約71%の $8.6 \times 10^{-6}/K$ 、	
81	下から5行目	※ <sup>1</sup> ウイスキー (wisker) : …	※ <sup>1</sup> ウイスキー (whisker) : …	
84	下から7行目	$\sigma_l = \sigma/E_l \epsilon$ , …	$\sigma_l = E_l \epsilon$ , …	赤字を削除
104	10行目	ると $(l-l)/l_0$ (これを公称ひずみ: …	ると $(l-l_0)/l_0$ (これを公称ひずみ: …	
112	5行目	で割った値をシャルピー衝撃値 (単位 $[J/m^3]$ ) という。	で割った値をシャルピー衝撃値 (単位 $[J/cm^3]$ ) という。	
156	一番上の行	…である。 $T_P$ 温度直上において $L_E + \alpha_F \rightarrow \beta_P$ の包晶反応	…である。 $T_P$ 温度直上において $L_G + \alpha_F \rightarrow \beta_P$ の包晶反応	
156	8行目	…を起こし、組成 $x$ と温度 $T_E$ が規定	…を起こし、組成 $x$ と温度 $T_P$ が規定	
156	下から7行目	② 包晶線上において線上液相 ( $L_E$ ) + 固相 ( $\alpha_F$ ) $\rightarrow$ …	② 包晶線上において線上液相 ( $L_G$ ) + 固相 ( $\alpha_F$ ) $\rightarrow$ …	
186	4行目	…している。ここで軸方向とすべり面の放線とのなす角を $\phi$ 、軸方向	…している。ここで軸方向とすべり面の法線とのなす角を $\phi$ 、軸方向	
247	下から2行目	…、これらの微小空洞は成長、合体し、負荷方向と垂	…、これらの微小空洞は成長、合体し、負荷方向と垂	
261	9行目	では、き裂は大きなせん断力を受ける …	では、き裂は大きなせん断力を受ける …	赤字を追加
272	4行目	微小き裂では、 $(a/\rho_t)$ の項の値は非常に大きい。	微小き裂では、 $(a/\rho_t)$ の項の値は非常に大きい。	
277	3行目	れる転位の集積や析出物、分在物、および結晶粒界などの …	れる転位の集積や析出物、介在物、および結晶粒界などの …	
281	下から4行目	…と比較して、ひずみ速度 $\dot{\epsilon}_1$ がひずみ速度 $\dot{\epsilon}_2$ に増加する。	…と比較して、ひずみ速度 $\dot{\epsilon}_1$ がひずみ速度 $\dot{\epsilon}_2$ に増加する。	